



朝霞第二小だより



【学校教育目標】 進んで学習する子(知) 仲良く助け合う子(徳) 健康で明るい子(体)

〒351-0007 朝霞市岡3丁目16番13号 TEL048-461-0042 FAX048-467-4735
令和6年 6月 1日(6月号) 児童数 756名(5/27現在)

地産地消 ～6月は食育月間・学校給食月間です～

校長 宮腰 高子

新緑の美しい季節となりました。学校の花壇にはアジサイの花が優しい色で咲き始め、その足下にはホオズキの花が沢山咲いています。夏を過ぎた頃、赤くきれいに膨らんだホオズキで一杯になるのが楽しみです。



コロナ禍が過ぎ、通常の給食スタイルが戻ってきました。「おいしいね」「おかわりしようかな」と会話も弾んでいるようです。コロナ禍では「黙食」で、安全に食事することに重きを置いてきました。つい1年前のことですが遠い昔のようにも感じます。感染症対策期間には良い面もあり、衛生に気をつけた食べ方や、しゃべらない分、しっかりと味わって食べる良さも再確認することができました。今もクラスによっては「もぐもぐタイム」などの名前をつけて一定の時間、食べることに集中する指導をしています。

さて、「地産地消」という言葉を耳にされたことがあるでしょうか。「地元で生産されたものを地元で消費する」と言う意味です。学校給食においてもこのことを積極的に取り入れています。地場産物を活用し、食に関する指導の教材として用いることにより、子供がより身近に、実感を持って地域の食や食文化等について理解を深め、食料の生産、流通に関わる人々に対する感謝の気持ちを抱くことができます。また、地場産物の活用は、生産地と消費地との距離が縮減されることにより、その輸送に係る二酸化炭素の排出量も抑制されるとともに、流通に要するエネルギーや経費の節減等環境負荷の低減にも寄与するものであり、SDGsの観点からも有効です。



【枝豆畑】



【トウモロコシ畑】

二小の周りにも多くの畑があり、私たちと同じ空気や日光の環境の中すくすくと育っています。畑を見ながら学区を巡ってみるときれいに整えられた畑に様々な野菜が育てられているのに気づきます。ほうれん草、枝豆、トウモロコシ、にんじん、大根、…。大切に育てられている野菜を、感謝の気持ちと楽しみな気持ちで頂きたいと感じました。皆さんもお子さんと畑の前を通りかかることがありましたら是非話題にしてください。

学校における食育の視点（文部科学省・食に関する指導の手引きより）

- ①食事の重要性（食事の重要性、食事の喜び、楽しさを理解する。）
 - ②心身の健康（心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事のとり方を理解し、自ら管理していく能力を身に付ける。）
 - ③食品を選択する能力（正しい知識・情報に基づいて、食物の品質及び安全性等について自ら判断できる能力を身に付ける。）
 - ④感謝の心（食物を大事にし、食物の生産等にかかわる人々への感謝する心をもつ。）
 - ⑤社会性（食事のマナーや食事を通じた人間関係形成能力を身に付ける。）
 - ⑥食文化（各地域の産物、食文化や食にかかわる歴史等を理解し、尊重する心をもつ。）
- ※学校では、給食の時間だけでなく、様々な授業やそれ以外の活動で食育を推進しています。

ホオズキは私の幼い頃の思い出の一つです。ホオズキの丸い実の中身を掻き出して風船のようになった皮を口に含ませて音を鳴らして遊びました。ホオズキの数が限られているので失敗ないように爪楊枝で実を掻き出しました。掻き出すのも音を鳴らすのも母がとても上手で憧れたのを思い出します。保護者や地域の皆さんもそれぞれに季節の思い出があるのではないのでしょうか。